

目的 アキタブキ (*Petasites japonicus* subsp. *giganteus* Kitam.) は、秋田音頭に「優美で豪華な傘の代用になる」と唄われ、また「うすうすと空に日はあり露の原」と詠まれている程巨大なキク科多年草で、秋田県の特産の一つとして数えられているので、数年前から研究にとりかかった。一方、無機質は微量栄養素として人体の生命維持や多くの生体反応に必要不可欠のものであるが、わが国にはこれに関する研究報告も少ないので、アキタブキに含まれる無機質含量を知りたいと思い、この実験を行なった。

方法 アキタブキには、大フキ(通称アキタブキ、観賞用アキタブキ)、青フキ、赤フキ、水フキの四種があるといわれるが、大フキについては昭和50年より55年まで毎年、その本場である秋田市仁井田の農家から、また54・55年には秋田市内の庭から入手した。生のものについては、葉身・葉柄の各平均的な値を、また葉柄は上部・中部・下部と部位別にも測定し、さらに、茹でた場合、塩漬け貯蔵した場合の含量の変化をも調べた。灰分は550°Cの電気炉で灰化し、無機成分は原子吸光法によって定量した。

結果 55年6月に採取したアキタブキ葉柄100g中の無機成分の含量は、灰分1.39g, Ca 118.7mg, Na 78.4mg, K 702.7mg, Fe 1.3mg, Cu 0.2mg, Zn 3.6mgであった。53年に採取して塩漬け1か年保存したフキを20分間茹でたものは、100g中灰分3.59g, Ca 27.9mg, Na 736mg, K 49.9mg, Fe 0.1mg, Cu 0.02mg, Zn 0.09mgであった。葉身と葉柄の含量を比べると葉身の方が多く、葉柄部位別の含量はだいたいにおいて下部より上部の方が高い値を示した。